

優秀賞

「お先にどうぞ」

宮崎県 広瀬中学校 一年 黒木 陽奈子

「よかったら、お先にどうぞ……。」

私は、勇気を振りしぼってそう言った。昨年の夏、ある商業施設のトイレに一人で行ったときのことだ。

トイレは、夏休み中ですごく混んでいて、私の後ろには小さな女の子を連れてお母さんが並んでいた。女の子はお母さんに、

「もう、がまんできないよ。」

と、もじもじしながら言っていた。このとき、私は自分の小さかった頃のできごとを思い出した。

母とトイレに行ったときに、前にいた大人の人が、

「もしよかったら、先にどうぞ。」

と言ってくれて、とてもうれしくて、助かったことを思い出した。

そこで私は、勇気を出してその親子にこう言った。すると、そのお母さんが、

「ありがとうございます。本当にいいんですか。」

と申し訳なさそうに言って、うれしそうな笑顔で、女の子を連れてトイレに入った。

それまで、私はドキドキした気持ちと、不安な気持ちで心臓が飛び出しそうだった。なぜなら、頭の中に『小さな親切、大きなお世話』という言葉があったからだ。

しかし、お母さんのひとことと女の子の笑顔に、安心して心が温かくなり、断られたらどうしよう、という頭の中の不安がすーっと一瞬にして消えた。

このとき、もし順番をゆずらなかつたら、私は後悔して、そのあとの一日をきっと楽しめなかつただろう。

このできごとがあつてから、私は自分の意見がはっきりと言えるようになった。その理由は、勇気を振りしぼって不安を乗り越えた自分に自信がついたからだ、と私は思う。

どんなに小さなことでも、自分から積極的に声をかけることで相手が助かったり、うれしい気持ちになったりする。そして、自分もうれしく、また親切をしようという気持ちになる。

「情けは人のためならず」という言葉があるが、この言葉の意味どおり、相手に親切をしたことが自分に返ってきて、自分も成長することができる。まさに、今回の私が経験した「親切をして成長する」ということそのものだ。

そして、みんなが相手を思いやり親切をしたら、親切の輪も広がり、やさしい社会ができると私は思う。